



# 日本女医会誌

復刊第 193 号  
2008 年 1 月 25 日発行  
題字 吉岡彌生

## 巻頭言

# アンテナを高く、志を高く

会長 小田泰子

新年明けましておめでとうございます。

人口の高齢化が急速に進んでいます。総務省の発表によりますと 2007 年 11 月 1 日現在、日本の総人口に占める 65 歳以上の人口は 21.5%、その中でも後期高齢者といわれる 75 歳以上の人口は 10% に達しました。75 歳以上の人口が 5% になったのは 1991 年でしたので、この 16 年間で後期高齢者の数が倍増した事になります。一方 14 歳以下の人口は減り続け 35.4% から 13.5% になりました。

昨年も日本女医会は多くの活動を行いました。その一つは、子育て支援委員会による「21 世紀の子どものために小児救急医療の整備と提言事業」です。この事業は、休日や夜間の救急外来を受診する子どもの軽症患者増加による救急外来の混雑緩和を目的とした事業です。子育て委員会は、よくある小児疾患の基礎知識とその対処方法を教えるための冊子『どうしよう～子どもの救急』を作成し、各地で講習会を開催しています。女性医師でなければできない地道な、草の根的な育児支援ですが、テキストともども、非常に好評で、受講者から感謝されています。

もう一つの活動は、長寿社会福祉委員会が計画した「たんの吸引を安全に実施するための教育講習事業」です。これは、たんの吸引が介護に当たるヘルパーらの業務とされていないために、患者や家族の要望に対応できない場合があることから、ヘルパーを含めた一般市民にたんの吸引の教育活動を行い、在宅で介護を受けている人やその家族のより良い QOL を目指そうとする活動です。これも全国で展開していますが、在宅で生きる高齢者の増加もあり、最近では行政が積極的に、この活動を支援してくれるようになり受講者も順調に増えています。これに関する教育ビデオを作成頒布しています。

また、昨年 12 月 9 日には、新たに発足した女性医師支援委員会の初仕事「医学を志す女性のためのキャリアデザインセミナー ペーパードクターにならないで」(参加者 93 名) を開催しました。全国から医師を志す多くの若い女性の参加を得て、出席者により情報を提供でき、会を企画した私たち会員も元気を貰いました。この経験はこれからの女医会活動の一つの指針となると感じています。

## 日本女医会誌 (第193号) もくじ

〈巻頭言〉アンテナを高く、志を高く ……小田泰子 (1)
〈年頭所感〉中山年子・斎藤文子・尾中妙子・青木正美・村田洋子・渡邊弘美・野々田宜子・堀 幸江・小尾契子・杉本千佳子・小栗貴美子・永野 薫・宮崎千恵 (2)
〈委員会報告〉
【子育て委員会】 ……村田 郁 (8)
【長寿社会福祉委員会】
「たんの吸引を安全に行なうための講習会」 ……野崎京子〔大阪〕・豊岡志保〔寒河江〕・塚田篤子〔宇都宮〕 (8)
〈活動報告ほか〉
医学を志す女性のためのキャリアデザインセミナー開催「ペーパードクターにならないで」 ……荒木葉子 (11)

市民公開講座「女性ホルモンの不思議と女性の健康」を開催して ……斎藤恵子 (13)
ejnet 第 3 回シンポジウムに参加して ……橋本葉子 (13)
「医師会役員に女性医師を」 要望書を提出 …… (14)
平成の東海地震に備えよ! ……青木正美 (15)
〈支部だより〉京都支部のつどい ……石川知子 (18)
〈書評〉『おひとりさまの老後』 ……角田由美子 (19)
理事会議事録 …… (21)
告示、第 53 回定時総会のお知らせ、会員動静、編集後記 …… (24)

また、昨年は数県の支部を訪問させていただきました。支部に参りますと女性医師の増加、卒業大学の多様性を肌で感じます。日本女医会は会員構成から申しますと東京女子医科大学の同窓会依存から脱却しつつあります。しかし、東京女子医科大学の持つ強力な全国ネットの恩恵により、各地の女医会とスムーズに連携が取れるのを感謝しています。

日本女医会のメイン事業である吉岡弥生賞、荻野吟子賞、学術研究助成金の応募者も毎年増加しており、日本女医会の活動が定着しつつあることを実感しています。

小児救急とたん吸引研修事業は、継続事業として参ります。さらに、次年度は、在宅高齢者（嚥下障害者、胃瘻造設者）の栄養管理事業と「十代の性の健康」支援ネットワーク事業の助成を申請しています。また、今年度内に内在し深刻化している「家庭内暴力」についての講習会開催に向かって準備中です。このほか女性を家庭や子どもに縛り付ける大きな要因である「三歳児神話」、未だにある女の道徳律「三従」、「女大学」も現在の眼で検証したい課題です。

勤務医の過重労働がいられていますが、男性の働き方を変えないで、女性の働き方だけを変え、かつ、男性と同様の昇進を望むのはフェアではありません。それでも女性医師の力が必要であるのなら女性医師に働き続けるモチベーションを失わせない待遇の改善と昇進、すなわち女性の働きを評価するシステムが必要です。日本における女性医師の働く環境は必ずしもよいとは言えませんが、女性医師の地位向上、女性医師の社会的認知度を高めるといふ日本女医会の創立理念を基本に、一步一步、歩を進めて参りたいと考えています。

医師不足を受けて女性医師に焦点が当てられています。今は女性医師の力が必要とされているのです。その意味で現在は歴史の変換点にあるとも言えます。歴史の変換は少数派から始まります。世の中は変わります。ベルリンの壁も壊れました。女性を変える、男性を変える、社会を変える。多様性の時代、女性医師に生き抜く力を与えるために、アンテナを高く、視野を広く、志を高く女医会活動を続けて参りたい。これが新年の決意であり、希望でもあります。



## 年頭所感



### 年頭に当たり思うこと

東京都支部連合会 会長 中山年子

皆様ご機嫌良く新年をお迎えの事と思います。昨今の異常気象と呼応したかのように国内外の乱調が医療にも及びました。福島県の大野病院では診療中の医師が逮捕されるという愕然とするような事件もありました。医業に携わる者は信頼に応えるべく、日夜研鑽を積んで居ますが、神で無い限り完璧だけ求められる事は酷です。ここで考えねばならないのは、無過失責任と言う問題です。支援策が検討され『無過失責任保健』を制定すべきだと対策が考えられていますが、我々医師が現況の医療政策では、疲れきってしまった新人医師の頃の意欲を持ち続ける事など到底考えられません。世の中がハイテクを賛美し精巧なロボットが出来て診療をするという夢の様な事が出来ても、人間の暖かい心の触れ合いは出来ません。最近では医師に患部の治療の他に精神的な「癒し」「救い」を求める人が多いようです。「女の先生」に診察してもらって良かった、ここに来て心が暖か

く軽くなった」と泣かれる事が時々あります。女性医師には同性の気安さが感じられて心を開く事が出来るのでしょうか、女性医師の使命は多いと再確認しています。然し女性が仕事を続ける事の困難さは想像に絶するものが有ります。開業医も病院勤務も規定の診療時間だけで済む職業ではありません。限りある時間で研究もして研究会にも参加しなければならず、結婚、家事、育児、と言う負担は殆ど女性に掛かって来ます。信頼して全てを任せられる人があれば幸いですけれど、なければ仕事を止むなく中断せざるを得ないと言うのが実情です。長期離職者の再教育、子育て支援等の事業を若い医師が活用されることを希望しています。

日本女医会、長寿社会福祉委員会では大坪公子理事が中心となり在宅患者の為に「たん吸引を安全に行なう為の講習会」を各地で開催しています。法的な解釈や実技指導、モデル実習、参加者同士の実技に熱がこもり今後の高齢者社会に必要な事業であると痛感しています。今年は「子」の年です。全ての始まりと言われる今年こそ百余年の歴史を顧み、責

任ある女性医師の未来に向かって叡智を集めて進みましょう。

## 2008 年年頭に当って

世田谷支部 齋藤文子

あけましておめでとうございます。東北地方の豪雨、国内外を問わずむごたらしい犯罪などが、あとを絶たず騒々しい過去一年でした。目を転じて、月探査衛星「かぐや」がとらえた「日の出」ならぬ「地球の出」は、まさに青い地球が、かぐやいて月のクレーターの向うから昇って来るさまは、本当に美しく、今世紀に生を受けた者の特権の極にわくわくした思いで見とれて居りました。

どうぞ今年は、おだやかな一年であります様にと祈らずには居られません。

## 79 歳を迎えるに当って

台東支部 尾中妙子

新年明けましておめでとうございます。私こと、尾

中妙子は現在 78 歳、2 年前大腸癌と軽い脳梗塞となり入院、現在は回復しましたが、約 40 年前この土地上野御徒町に眼科医院を開業して以来これを機に閉院し仕事を止めました。現在はその余暇を月に 1・2 回のゴルフ、月 1 回の歌の練習、週 1 回の英語の勉強、週 2・3 回の水泳、主人は 14 歳年下のサラリーマン、息子は東大理学部教授、孫娘は東邦大学医学部学生、一番上の姉は 94 歳になっておりますが今でも麻雀をやるほど元気です、御存知の様に御徒町のアメ横は大変賑やかな所で、夜遅くなくても人影が絶えず、24 時間眠らぬ町に住んでいます。本年もどうぞ宜しく願い申し上げます。

## 光を当てる 2008

中央支部 青木正美

新年、明けましておめでとうございます。近年、インターネットの発達によって、地球の裏側の出来事も瞬時に伝わる時代になりました。が、翻って考えますと、私たちは自分の国に起こっている切迫した問題に、意外に無頓着であり、無関心が高じて見過ごしてきた

本剤の効能・効果、用法・用量、禁忌を含む  
使用上の注意等は添付文書をご参照ください。

〔資料請求先〕  
 **武田薬品工業株式会社**  
〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号  
<http://www.takeda.co.jp/>

持続性アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤

指定医薬品 処方せん医薬品<sup>注</sup>

薬価基準収載



**ブロプレス錠** 2.4  
8.12  
(一般名:カンデサルタン シレキセチル錠) 注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

(0511)

事柄が沢山あることに気づきます。

例えば、昨年は「格差」ということが話題になりましたが、それは単に、以前から存在していた事実を目を向けてこなかっただけではないでしょうか。農業・林業などの一次産業が衰退し、医療制度が崩壊し、郵政民営化で不採算地域の整理が進めば、当然ながら中山間地では、人が暮らしていけなくなってしまいました。高齢化が進み限界集落が増え、そうして益々都会への一局集中が加速し、中央と地方の「格差」が進んでしまいました。その結果、都会では、個々人のレベルでの競争が急激に進んでしまい、競争の激化は社会の不安定を増大させてしまいました。少子化はこうした社会への警戒感の現れでもあるでしょう。すると「格差」とは、すべて人為的に政策によって作られた「歪み」によるものではなかったか、と、改めて気づかされた2007年でありました。

こんな時代にあって、私たちは「女性である」とことと「医師である」とことの、2つの大きな「視点」を持ち合わせている、希有な存在です。こんな時代だからこそ、この希有なる「視点」をより研ぎすまして、無頓着や無関心から広がっていく様々な問題に光を当てて行こうではありませんか！

## 年頭雑感

港支部 村田洋子

あけましておめでとうございます。私事ですが、大学病院勤務から離れて、4年目を迎えようとしています。離れて感じた事は、大学という囲いの中で、安全に自由に医療が行えてきた事、新しい機器を使い、最先端な仕事のできた事、世間の常識が分からなくても、特に困らない事、先生と言われて（口ばかりの事も含めて）舞い上がっていた事、などでした。始めは、東京女子医科大学助教授と一匹狼のただの開業医の医者との肩書の差に戸惑い、戦い、どのような診療をして良いか、どのように経営して良いか、分からなく、手さぐりで診療を行ってきた毎日でした。ようやく最近分かった事は、患者の立場で行い、自分が正しいと信じる事を行えば、間違いはない事に気がつきました。大学の名のもとに集まってくる患者さまより、私、個人に対して、信頼を寄せ、診療に訪れる患者さま、一人一人を大事にしたいと思っています。また、従業員を大切に、患者さまが安心できる医院づくりに今後とも頑張っていこうと思っています。

AJINOMOTO®



酢酸ゼロを  
すべての患者さまに

処方せん医薬品<sup>注)</sup>

薬価基準収載

人工腎臓用透析液

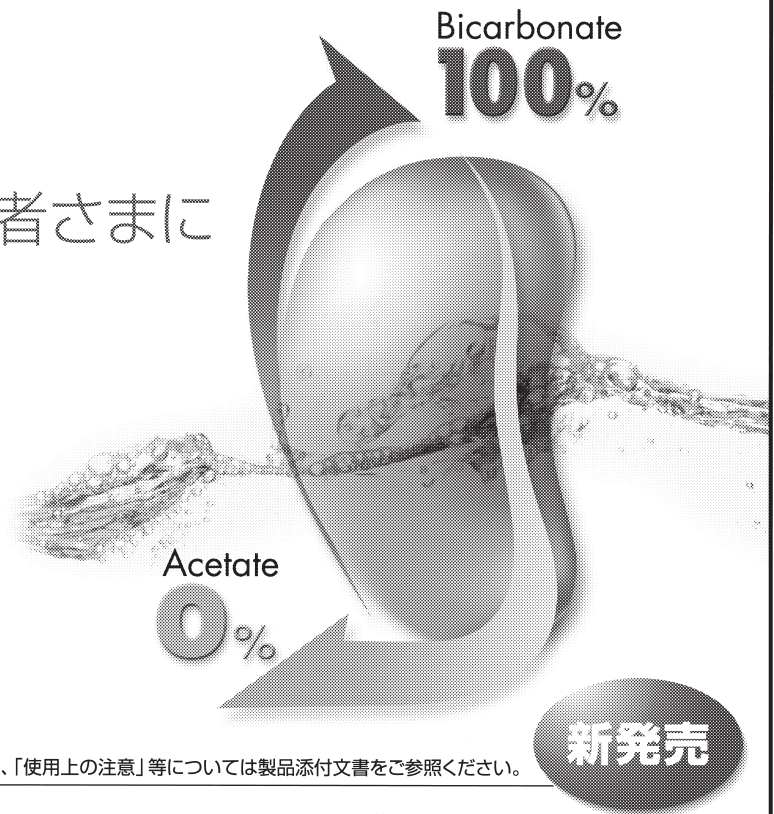
**カーボスター® 透析剤・L**  
**カーボスター® 透析剤・M**

人工腎臓透析用粉末製剤

**カーボスター® 透析剤・P**

CARBOSTAR®

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること



新発売

★「効能又は効果」、「用法及び用量」、「使用上の注意」等については製品添付文書をご参照ください。



発売（資料請求先）

味の素ファルマ株式会社 学術研修部  
〒104-8315 東京都中央区京橋一丁目15番1号

製造販売

味の素株式会社  
〒104-8315 東京都中央区京橋一丁目15番1号

2007年6月作成  
CAB-JA42-0607-MCP



## 年頭所感

東女医学内支部 **渡邊弘美**

明けましておめでとうございます。昨年4月より、千葉にある福祉教育の先駆けである淑徳大学に看護学部を立ち上げ、看護教育に携わっております。わが国は高齢化の拡大に伴う在宅療養の推進や生活習慣病の蔓延、子育て支援等の諸問題をかかえ、今後看護師の活動は医療現場のみならず保健・医療・福祉との連携がさらに重要になってきます。医学生を含め医学領域でも抱えた問題は同じなのに、まだその認識が浅いような気がいたします。一方では医学教育学会の準備小委員会のメンバーとして、医学生が専門科目以前に何を学ぶべきか、という視点から「医学部では教えてくれなかったこと」という切り口で議論を重ねています。今流行のKY（…空気が読めない）ための場違いなコミュニケーションや、倫理観の問題なども取り上げられています。私達医療者が関わっていくのは、「患者さん」でなく「生活する人が病になったり、老いたりする」ことなのだ、という気づきを今年に更に伝えていきたいと思っております。



## 年の初めに。

都下東支部 **野々田宜子**

新年おめでとうございます。今年の干支は鼠、子孫繁栄の年ですが、我が国の行政、企業などが子育て支援等に取り組み始めたばかりです。日本女医会誌で上田喜代子先生が現代の女性医師の80%が子供を希望していると報告されています。女性として当然の事と思えます。日本女医会がその女性医師を支援する事業を本格的に始めた事は嬉しい事です。

昨年秋、卒後41年のクラス会をタイで行いました。子供達は独立しましたが、夫を亡くしたり、疾病と戦っている人も居りました。苦労は様々ですが、異口同音に医師であって良かったと語っていました。医師として患者さんと接している時が一番幸せに感じるとも。若い先生方も是非頑張って医師を続けて下さい。



## 新春に寄せて

都下西支部 **堀 幸江**

明けましておめでとうございます。平成18年度より支

部長を務めさせて頂いております。百余年、先輩の先生方の強い結束と地道な御努力により、社会への貢献を続けてこられましたことに対し賞賛の念を新たにしております。

目まぐるしく変化を遂げ、多様な価値観の時代に即応し、日本女医会の目的及び活動の在り方をより魅力あるものにして、会員の増加にも力を入れ、その役割を果たしていく事が望まれます。また、日本医師会、厚労省、内閣府等の関連機関との関係を更に密にして協力し、事業の遂行、問題の解決へ参画して行く事も益々大切と思われまます。本会が一層の発展の年となります様祈念致します。



## 年頭所感

山梨支部 **小尾契子**

昨年は医療に関わる大きな問題が人々の不安を引起した。医師不足である。殊に小児科、産科で著しい。しかし全国的にみて医師の数が減少している訳ではない。その原因は様々で一概に断じ得ないが、大学を卒業し国家試験に合格した後の研修医の大学の医局離れと大都市の病院あるいは研修医の間で評価の高い病院への集中による偏在も一因と言えるであろうし、研修終了後、大学病院やその他の病院に勤務する期間は短く、勤務医より開業医を選択する医師が多いということもありうる。勤務医は激務であるにも拘わらずそれに見合う待遇ではない。一般の人達の医療に対する期待や要求は非常に高く、結果に対する評価や批判、責任の追及は極めて厳しい。

一方、社会的には女性の社会進出もめざましく、自分らしく生きようという考えを持つ女性が多くなった。国民の生活水準も高くなり、それを維持するためにも夫婦共働きが当たり前となった。日本の人口構成に占める15歳未満の子どもの割合は、1982年から減少の一途を辿り、昨年4月の総務省の推計によると、総人口の13.7%に65歳以上の人は20.4%で過去最高で、子どもと高齢者の数の差は開く一方であるという。

こうした社会情勢の中で、数少ない子どもに良い生活環境で高い教育を施し、エリートに育て上げたいと多くの親たちは願っている。産科医が足りなくて出産できる病院を救急車に乗ってから探し回ったり、子どもの具合が悪くなっても近所に小児科医がいなかったり、安心して子どもを産み育てる条件が失われつつある。

昨今では女性医師も増えてきたが、育児・家庭の維持と医師の厳しい仕事との両立はなかなか困難である。様々な要因が絡み合って医療の危機的状況を生じているのであるが、医師不足の解消の一つの策として、殊

に産科、小児科は女性医師が望まれる分野でもあり、働きやすい環境づくりを（すでにそのような配慮をしている施設も一部に有るが）全国的に押し進めていくためには、若い人も子育てを終えた人も女性医師自身一丸となって積極的に運動を起さなければならない。

## 年の初めに

静岡支部 杉本千佳子

新年明けましておめでとうございます。長い間静岡県女医会の支部長を務められた竹内静香先生に代わり、若輩者の私が支部長を拝命し早1年が過ぎました。私にとりましては先輩諸姉の偉大さをつくづく実感した1年でした。外に目を向けると産科、小児科医療の危機や地方医療の崩壊が声高に叫ばれた平成19年でしたが、新しい年は何が解決し、どれだけの課題が積み残されるのでしょうか？

日本女医会の女性医師復職、キャリア継続に向けた試みは今後大いに期待できる事業であります。私どもの支部でも微力ながら何かお役に立てることがあればと模索中です。日常診療、子育てそして親の世代の介護も抱える私たち年代の女医がどのように働きかけていけるの

か、本音を申し上げると心許ない次第です。しかしながら、この一年で私は先輩から多くの経験を伺い、過去を知り受け継ぐことの大切さ、そしてそれが次の世代の重要な動機となることを学びました。さらに若い女性医師のみなさんと語りあうことから本年をスタートさせたいと思っています。皆様どうぞよろしくお願い致します。よい一年でありますように。

## 年頭にあたって

愛知支部 小栗貴美子

新年あけましておめでとうございます。坂東真理子著「女性の品格」のベストセラーは衰えることなく続いているようです。さりげない優しさを漂わせながら、的確な主張を孕んだ姿勢が、多世代・多分野に亘って女性のこころを惹き付けてやまないのでしょう。

年頭、ふと「女医の品格とは」と己に問うてみました。臨床医には欠かせないという前提に立って思いを馳せ、病める人の母として、姉もしくは妹として、また娘として、時には祖母として対応すること、との結論に至りました。とてもそんな気分になれない時でもとにかく努力

高親和性AT<sub>1</sub>レセプターブロッカー

薬価基準収載

**オルメテック錠** 5mg 10mg 20mg

指定医薬品 処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること  
一般名/オルメサルタン メドキシミル

製造販売元（資料請求先）  
第一三共株式会社  
東京都中央区日本橋本町3-5-1  
Daiichi-Sankyo

プロモーション提携  
株式会社 三和化学研究所  
SKK 〒461-8631 名古屋市東区東外堀町35番地

※効能・効果、用法・用量および禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。

0704 (0711)

して試みる、を今年の目標としてみようと考えています。奢らず、昂ぶらず、かと言って譲らず、双方オープンな付き合いをする。そんな当たり前のことができないのが相手とのスムーズな関係をこじらせる要因ではないでしょうか。まずはこちらの心がけが肝要だと思います。何だか外来での気分が明るくなってきました。

万博以来、いろいろな領域で愛知の株はあがっています。わが日本女医会も、和をモットーに90代から30代まで、女医の品格を高めるべく、お互いに切磋琢磨しながらきびしい医療界に対峙していこうと張り切っております。実りある一年になることを願いつつ、本年も何とぞよろしく願い申し上げます。

## 年頭所感

新潟支部 永野 薫

明けましておめでとうございます。昨年も又新潟支部は中越沖地震における災害の為、格別お世話になり厚くお礼申し上げます。平成16年の集中豪雨や中越地震に続く自然災害で、その都度、日本女医会からはどこよりも早く温いお見舞と励ましの言葉を頂き、その上に厚いご支援を賜り会員の皆様から心から感謝致しております。

昨今の医療環境の悪化は新潟県も例外でなく地域医療を守る為真剣な努力がなされています。医師不足が言われ、女性医師4割時代も近く、女性医師活躍の期待と責務は益々大きくなっています。日本女医会が取り組んで来ました「働く女性のための育児環境整備事業」への医師会や行政の理解と協力の輪が広がっています。

この機にあらためて歴史ある日本女医会の存在すること、日本女医会活動の意義と重要性を大いに主張して行かねばなりません。新年を迎え日本女医会会員の増加と会の発展を心から念じております。

## 年頭所感

岐阜支部 宮崎千恵

あけましておめでとうございます。昨年の春、松波百合子先生から支部長を引き継いで下さいとの依頼を受け、お引き受けすることにいたしました。私が日本女医会に入会したのは、平成13年とつい最近のことであり、大変肩身が狭い思いですが、お引き受けした以上出来るだけご迷惑をかけないように、新年を迎え意を新たに、頑張りたいと思います。私が日本女医会に入会するきっかけとなりましたのは、日本医師会でも、女性医師が大変

増えている現状を把握し、日本医師会に女性の理事をとった要望があちこちでもちあがり、これに対応して平成12年に日本医師会女性医師懇談会が設けられました。この懇談会委員長であった石原幸子先生のお薦めで入会いたしました。その直後に、東京で国際女医会議が開催され大変盛会だったことに驚きました。私自身が女性医師の抱えるいろいろな問題に気付きましたのは、母校久留米大学の教授から、「午前中の講義は真面目な女子学生が多く、まるで女子大で講義している錯覚にとらわれる」と聞き驚いたことに始まりました。その後、女医が増えている一方で、出産や育児の時期になると100%の能力を発揮できずに悶々としたり、またドロップアウトしてパート医や安易に開業に走っているという矛盾をいかにしたらよいかなどの問題解決に向けて、日本医師会の委員会では発言してきました。そして、これをいかに地方の医師会にも理解していただけるかと、この数年は全力で奔走してまいりました。その一環として、一昨年夏には当時男女共同参画担当大臣であった猪口邦子先生に基調講演をお願いし、岐阜市医師会主催の「女性医師の働く環境」をテーマにしたフォーラムを開催し、県知事や、岐阜大学学長、病院長以下病院管理職など関連の方々のご理解を頂き嬉しく思いました。その頃より、一方では研修医制度の変更による地方での医師不足問題が深刻化し、その解決策の1つとして女性医師が出来るだけフル勤務を出来るにはいかにしたら良いかといった問題がクローズアップされてきました。岐阜県でも大学、県などがやっと腰をあげ、女性医師バンクなども立ち上がってきており、女性医師の働く環境問題の追い風となっております。ただここで問題なのは、女性医師問題ばかりを取り上げていることによる、男性医師、特に勤務医の反発も無視できません。地方での医師の絶対数不足で男性医師の燃え尽き症候群が起きている公立病院などで、何故女医ばかりにスポットライトを当てるのかと反発があります。医師に限らず男性、女性ともに、昨今の若者気質が変化しており、産科、小児科、麻酔科など、危険でハードな勤務の予想される科への入局者が激減している問題を根本的に解決しなければ、日本の医療の行く先には大変暗いものがあります。また、女性医師問題は医療の現場だけでなく、日本の家庭での主婦の役割に関する考え方（即ちジェンダー問題）を根本的に子供の頃から変えていく事が不可欠で有ると思います。いずれにしても、日本の医療の質をこれ以上下げないためには、日本女医会、日本医師会、各地方の医師会などが一丸となって関連各省に提言していくことが必要で、そのためにも日本女医会の役割は、今年は特に大切な年になると痛感いたします。本年もどうぞよろしくお願い致します。



## 子育て支援委員会

### 「或る日の講演依頼」より

理事 村田 郁

風邪の流行がみられる頃、埼玉県保健医療部医療整備課長より次の講師依頼が来ました。埼玉県庁で行っている「子どもの健康、みんなで支え愛事業」の一つとして託児サロンを行うために必要な「応急手当」について・日常起こりうる発熱・嘔吐・腹痛・咳・呼吸困難・誤飲・ケガ等の応急手当、及び対応の仕方を学び、安心して一同協力しながらサロンを行いたいとのことでした。正に子育て委員会で昨年度より開催してきました小児救急の講演会、ミニ講演会の趣旨と同じですので快くお引き受けいたしました。埼玉県では最近# 8000 事業（全国一律に# 8000 をプッシュすると近くの相談窓口へ転送され、小児科医師・看護師からアドバイスを受けられる小児救急の24時間電話相談事業）が開始されており、夜間電話相談に看護師さんが活動していらっしゃいます。さらに講演会をすることにより子育て中の方達が正しい知識を得て家庭や保育の場で安心して子育てできるよう共に学ぶ機会を作りたいと思います。埼玉県医療整備課では、教材として子育て支援委員会で制作致しました「ぐあいが悪い けがをした どうしよう子どもの救急」を相当数お買上げ下さいました。ミニ講演会での冊子テキストとして皆様に使って頂いております。委員長の方の石原先生は時間の可能な限り何度も講演下さいまして県より感謝されております。

すでに来年一月の予定のミニ講演会の準備も整いつつあります。

子育て支援の輪が幾重にも広がり、自信をもって子育てが出来ます様、又この輪が母親同志の絆となって連携出来れば強い自信が湧いて来るに違いありません。左手にテキストの袋を右手に子の手を引き、若い足どり親子の姿が目に見え参ります。祈る健康

診し子らの

風邪のいかにや夜半の雨

馥世



## 長寿社会福祉委員会

### 第6回「たんの吸引を安全に行なうための講習会」が盛況のうちに終了

大阪支部連合会会長 野崎京子

平成19年9月30日（日）、大阪府医師協同組合ビル8F大ホールにて上記講習会が大阪府女医会共催、大阪府医師会後援で開催された。小田泰子会長出席のもと、受講者75名、それに講師・実習指導者、実行委員、オブザーバーなどが加わり全体で約115名が参加した。当日は小雨模様の天候であったが、参加者の出席もよく、講師の先生方の熱意も伝わって盛況のうちに講習会を終了することが出来た。遠方からお出で頂いた小田会長、委員会・外部評価委員の先生方に心より感謝する次第である。

さて大阪で開催するまでに、東京で3回、名古屋、仙台で上記講習会が施行されてきている。したがって事務局も含め本部関係者の方々にとっては既にかなり苦勞を重ね、手慣れた講習会になっていたであろうと思われる。しかし、大阪で講習会をすることになった時、実は私はその内容についてよく知らなかった。本部の取り組んでおられる事業のことは「日本女医会誌」を通して分かるわけだが、怠け者の私はあまり読んでいなかったようだ。

大阪支部連合会（十支部）としては、最近、行事は年に1回の総会だけであった。それ以外は平成17年に「病児保育ワークショップ」大阪開催のお世話をしていただけである。その時は一部の有志のお蔭で無事に終了することが出来た。一部有志だけといえども、経費や時間の関係で日本女医会活動のための集合はなかなか困難であった。今回の講習会も、似たような経過ではあったが無事に終わった。ところで、今回のように本部で計画したプロジェクトにもとづく講習会



グループにわかれたたんの吸引実習を行う





口からの吸引を体験する

などを全国各地で何回か開催していく場合、既に本部で積み上げたノウハウがある筈である。その上に各地域らしさを出すようにするとよいと思う。私たちは、最初は一から自己流でやりかけて、途中でそのことに気づき軌道修正をしていった。今回の場合であれば、この講習会は家族介護者、一般、医療関係者、ヘルパーを対象とし、介護者が「たんの吸引」を安全に行う手技を習得することを目的としたものであり、独立行政法人福祉医療機構より助成金を受けている。従って開催する度に内容やレベルが大きく異なるのは良くない。各地の受講者にとって、ほぼ同等の内容と価値の講習会が受けられようにするべきであろう。開催地の実行責任者がそのことを理解した上で地域性を出すためには、事前にプロジェクトの委員の説明をお聞きする機会を持つのもよい。それから開催のための活動を開始した方が能率的かつ有効であると思われる。

さて、これらの行事に参加してきたことが大阪支部の役員（本部評議員、予備評議員主体）と一般会員にとって今後の日本女医会活動に積極的に参加することにつながって欲しいと思う。平成21年度の総会開催を大阪でお引き受けしている。伝統ある日本女医会の活動に参加するよい機会である。何とか一般会員も関心を持ち、協力・参加出来るような会になるよう願っている。



広い会場でビデオを使っでの講義

## 「たんの吸引」を安全に行う講習会を寒河江市で開催して

山形支部 豊岡志保

そもそもの始まりは横浜で開催されました平成19年度日本女医会総会でした。副会長の角田由美子先生から、「たんの吸引」を安全に行う講習会を寒河江市で開催する予定があるとうかがいました。私は国立病院機構山形病院に勤務しておりますが、当院は神経難病の拠点病院であり、在宅療養の患者さんにとって大層良いお話と思い、お手伝いする約束をしました。



吸引カテーテルの説明を受ける受講者たち

山形には女医会員は名簿上で12名、全員に「たんの吸引」を安全に行う講習会の趣旨や開催の協力を文書でお願いしたところ、昭和11年女子医卒の阿部信乃先生、昭和25年福島医大卒の海野淑子先生からお電話いただき、当日参加はできませんが……というお知らせをいただきました。岸よし先生、加藤直美先生からは快諾いただいて、支部長斉藤俊子先生と準備を始めました。寒河江地区はまだ医師会の力が大きく、医師会長はこの地区唯一の訪問看護ステーションの所長を兼ねているようなものです。医師会長に後援をお願いし、寒河江市他4町の社会福祉課にも後援をお願いしました。一方、角田先生のお友達で寒河江市役所の社会福祉士の川田裕子さんとメールをやりとりしながら、会場の決定、当日の機材の準備などおこないました。当初平成20年1月を予定していましたが、大分早まり、10月14日に決定し、地元在住の講師として隣町で開業している呼吸器科の板坂美代子先生をお願いしました。

9月はじめにチラシができてから募集は順調に30名以上になり、女医会本部と何人まで受けられるかなど予想外の問題も出てきました。結局人体模型は女



鼻からの吸引を体験

医会から5台、当院看護学校と山形市立病院高等看護学院から1台ずつ借りて7台、吸引器は8台用意しました。

当日受講者は62名でした。大都市並みの人数の多さに地方における在宅療養の吸引のニーズについて改めて考えさせられました。この講習会はとても意義がありますので、できればミニ講座を企画したいと考えています。

遠方から御来県くださいました、小田泰子会長をはじめ、講師の先生方、寒河江在住の我孫子正平先生、山形市よりお手伝いに来てくださった笠島和子先生、神村裕子先生ありがとうございました。実習指導者としてご協力いただきました寒河江市西村山郡訪問看護ステーションの看護師さん達、後片付けまでお手伝いして下さった市役所の方々にも厚く御礼申し上げます。

## 「たんの吸引」を安全に行う講習会を宇都宮市で開催して

理事 塚田篤子

始まりは5月の理事会からでした。長寿社会福祉委員会委員長の大坪先生が「たんの吸引」を安全に行うための講習会の開催地を諸先生方に募られました。その時、わが栃木支部副支部長でもある山崎トヨ副会長がさっと手を挙げられ、「宇都宮でやります。」と表明。内心ドキッとしましたが、帰りがけに、山崎先生に「がんばろうね。」とお声を掛けられ、私ごときではありますが、理事として栃木より出させて頂いている以上、是非、地元宇都宮で会の開催を実現しなければならぬと心に刻んだものでした。

百聞は一見にしかず。まず、7月14日仙台の講習会を見学するため、土曜日の外来を早めに切り上げ、東北新幹線に飛び乗りました。山崎先生はすでに到

着されており、前半の講習会も済んで、熱気に満ちた後半の実習に入っておりましたが、なんとか雰囲気をつかむことができました。

山崎先生を中心に栃木支部の船越先生、清水先生、大野先生、寺本先生、藤田先生、木平先生、私塚田で準備会を設立しました。10月に支部総会を控えていたため、最終の詰めの会議が出来たのは11月も半ばになってからでした。しかし、栃木での開催が決まってすぐに山崎先生が宇都宮市役所の会議室を会場として確保し、更に宇都宮市との共催も取り付けておいてくださいました。私たち支部会員は地元在住の講師を探し、指導者になる看護師を募ること、吸引人形モデルを数台用意すること、受講者を定員になるまで確実に集めることなどを実現すべく協議を重ねました。結果、栃木支部会員でもある呼吸器内科の木平先生が講師を勤めてくださることになり、10名の精鋭なる看護師さんも集まり、獨協医大より吸引人形モデルも借りることが出来ました。

かくして平成19年11月25日第8回「たんの吸引」を安全に行う講習会を76名の受講者を迎え開催することが出来ました。私は、当日司会進行をさせていただきましたが、前半の講義では無駄口も居眠りもせず一生懸命講師の先生の話の姿に感激を覚えました。後半の実習では、向上心を持って、実際にカテーテルを使いながら吸引を覚えようとしている真剣な姿に、この会の有用性を教えられた気がしました。充実した会を開催できたと確信しております。

このように今回無事に会を終了することができたのは、まさに使命感に燃えた長寿社会福祉委員会の皆様のお力であり、さらに宇都宮市保健福祉課諸兄のご協力の賜物と心より感謝致しております。ありがとうございました。

最後に、このような機会を与えて頂いた小田泰子会長をはじめとする本部の皆様、本当にありがとうございました。支部の諸先生方大変お疲れ様でした。



吸引モデル人形を使って解剖の講義



## 医学を志す女性のための キャリアデザインセミナー開催 ～ペーパードクターにならないで

理事 荒木葉子

12月9日に女性と仕事の未来館で、女性医師支援委員会企画による、セミナーを開催しました。このセミナーは、内閣府「平成19年度チャレンジキャンペーン～女性高校生・学生の理工系分野への選択」関連行事と認められ、公的資金で開催することができました。

読売新聞で広報していただき、医学生は25名、研修医1名、中学生1名、高校生2名、大学生3名、社会人13名、医師19名でした。女医会役員を含めると合計93名の参加がありました。

まず、キャリア・アドバイザーの山本由紀子さんから、キャリアデザインについてのワークショップが行われました。ステップ1：自己分析、ステップ2：外部環境分析、ステップ3：なりたい私デザイン、ステップ4：そして実行の順に進められました。もっとも重要なのは、「なりたい私」を徹底的に考えること。そして、自分自身の棚卸をすることです。自分の今までの強みと弱み、そして「なりたい私」になるための障害になるものと促進してくれるもの気づき。興味、能力、価値観、経験、健康状態などを把握し、外部の情報を集め、冷静にかつ情熱をもって、キャリアデザインを描き、実際に書いてみるのが重要である、というお話でした。10年後の自分をイメージするのはなかなか難しいものでしたが、皆さん真剣に取り組みました。

厚生労働省医政局医師資格向上対策室長 菊岡修一さんからは、女性医師の現状と女性医師支援策が紹介されました。平成16年の医師総数は27万人、そのうち16.5%を女性が占めています。小児科や産婦人科入局者は増加しているにも関わらず、離職率も高いのが現状です。長谷川らの報告によれば、女性医師の就業率は35歳時75.0%まで低下します。

全国的な医師不足の背景には、研修医制度導入後の大学医学部の医師派遣機能の低下、病院勤務医の過重労働、女性医師の増加、医療紛争の増加などがあります。

厚生労働省が行っている、医師確保対策としては、  
1. 医師派遣機能の強化：都道府県における医療対策協議会の制度化、病院への財政支援、マグネットホスピタルを活用した医師派遣など、  
2. 病院勤務



ディスカッションをする講師の先生方。司会は荒木葉子理事

医の労働是正：開業医の役割の強化、地域拠点病院づくりとネットワーク化、  
3. 女性医師支援：ライフステージに応じた就労支援のため「女性医師バンク」設立と離職医師の再就業研修、院内保育園の充実、などが対応策としてあがっていました。

### 「女性医師バンク」の実態

女性医師のキャリア育成というよりも不足している労働力の補填という意義が強く、再就業研修は、まだ極めて限られているという現状があります。菊川先生の奥様も医師ですが、転勤が多く、奥様のキャリア形成は不十分になってしまったそうです。復帰なさったときの嬉しそうな顔を見て、女性のキャリア支援をしてこなかったことを反省した、とおっしゃっていました。

### 「大学病院で臨床医で働く」

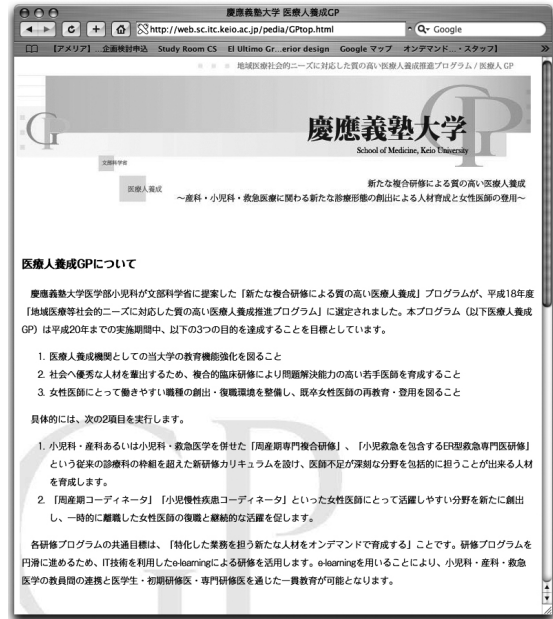
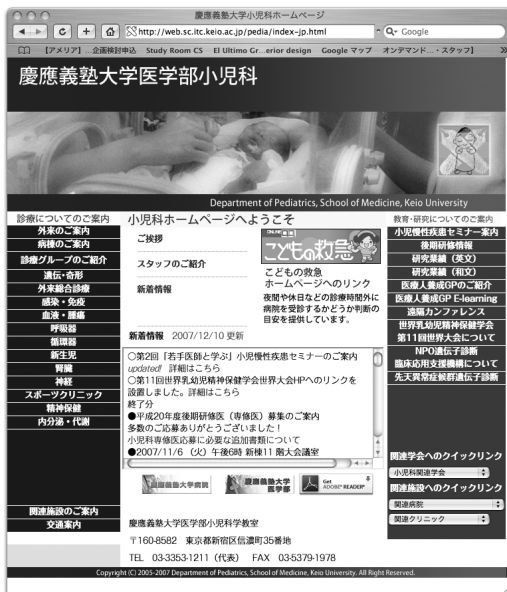
東京女子医大東医療センター小児科医の大谷智子先生は、子育てのたびに、キャリアの変更は余儀なくされたものの、大学病院の上司や先輩、家庭内での支援を受けてがんばって来れたと話されました。小児科→健診医→小児科などライフステージに応じて働き方を選択したケース、ワークシェアリングで常勤医として働いているケースなどを提示なさいました。若い医師は「クールで格好いい」働き方を望む人が多く、病院離れが著しく人員を確保することが難しいとのことで、社会的施策と同時に個人のやる気を引き出す教育が必要であると述べられました。

## 「女性総合医療の試み～経営との両立をめざして」

ウイミンズウェルネス銀座クリニック院長・産婦人科医の対馬ルリ子先生は、医師のキャリアデザインとして、仕事のできる医師→専門性を身につける→リーダーとして育つ→業績を残す→次世代を育成する→社会的に活躍する・アドバイザーとして活躍する、という長期にわたる展望を持つべきと述べられました。育児は確かに大変ではあるが、考えてみればたかが10年。その10年で医師としてのキャリアを失うのはあまりにももったいない。キャリアを維持していくには、まず自分を知る、自分と上手につき合う、自分を育てる、自分を満たすことが大切とお話でした。現在の医療制度のもとで経営を維持していくことは非常に困難であり、高い技能と意志を持つスタッフがいて初めて成り立つ、夢をかなえたいならば、仕事のできる医師にまずなってもらいたい、と力強い励ましの言葉がありました。

## 「診療コーディネーター育成と女性医師登用の取り組み」

慶應義塾大学医学部小児科医局長の福島裕之先生からは、文部科学省医療人養成推進プログラムとして行われている、小児科・産科・救急医学の複合研修および小児慢性疾患コーディネータについて説明がありました。コーディネータは「女性らしさ」が生かせる職種とのことで、小児科としての専門性を生かしながら他科との調整を行う仕事で、週2日程度の勤務になっており、報酬はこの科研究費から払われており、大学の正式の雇用ではない、とのことでした。意義はあるものの、やはり身分、報酬などが不明確であ



り、女性の今後のキャリア形成として更なる検討が必要に思われました。仕事を休んでいる女性のためにe-learningも開始されており、以下のサイトをご覧ください。

<http://web.sc.itc.keio.ac.jp/pedia/index-jp.html>

<http://web.sc.itc.keio.ac.jp/pedia/GPtop.html>

## 「耳鼻科から感染症専門家へ、そして行政職として働く」

仙台市副市長、熱帯医学、耳鼻科医の岩崎恵美子先生は、耳鼻科医時代は、一度現場を離れたところ、医局にはすでにいる場所がなく、仕方なく開業医として働いていたが、熱帯医学を学ぶために50歳でタイに留学。エボラ出血熱などの対策のため、ウガンダでの貴重な経験を積み、検疫センターの要職を勤められて、仙台市副市長になりました。日本では少しでも異質だと受け入れられない雰囲気があるが、海外では全く年齢性差別を感じることなく仕事できた。行政としての仕事は、臨床の経験を積んで取り組みことは意義が大きい、と話されました。

午前の部で、キャリアデザインのアウトラインを描き、厚生労働省の動きや先輩医師からの実体験に基づくアドバイス、大学病院での新たな試みなど、外部情報をたくさん仕入れ、心からのエールを受け取ってくださったと思います。

今後も改善や工夫を加えながら、セミナーを継続していきたいと思っています。



## 市民公開講座

### 「女性ホルモンの不思議と女性の健康」を開催して

岩手支部 齊藤恵子

日本女医会共催による平成19年度岩手県医師会女性医部会総会の特別講演が一般公開で平成19年10月20日(土)午後4時、ホテル東日本(盛岡市)で開催された。

演者はウイミンズ・ウエルネス銀座クリニック院長の、対馬ルリ子先生で演題「女性ホルモンの不思議と女性の健康」であった。

まず、卵巣ホルモン、黄体ホルモンが脳からの指令を受けて働き月経周期を作る事、妊娠の仕組みなど分かりやすく説明、女性ホルモンは女性性器だけでなく、皮膚をはじめとして身体の諸器官に密接な関係を持っていること、現代は妊娠回数が少なくなり、出産の高齢化などの影響を受けるためか、子宮内膜症の患者が増えていること、また月経前緊張症については若い人たちに聞かせたい内容であった。経口避妊薬の月経コントロール効果に加え、卵巣癌や子宮の病気を予防するHRTが現代の医療に役立つことを話された。一般聴衆にとって分かりやすく話され大



対馬ルリ子先生による講演

変に喜ばれた。女性医師にとってはHRTに習熟してより女性患者の役に立ちたいとの思いを強くした。岩手県の取り組みである女性医師支援事業については女性医師自身、支援を待つのみでなく積極的に自分の道を開いていく気概を持つ必要があると強調された。女性には無理と断られた東大婦人科医局生活の子育てしながら達成された先生ならではの力強いお話を感銘を受けた。女性医師25名で聴衆は90名と盛会であった。

## ejnet 第3回シンポジウムに参加して

東女医学内支部 橋本葉子

ejnetとは内閣府認証特定非営利活動法人「女性医師のキャリア形成・維持・向上をめざす会」のことで、2005年に瀧野敏子先生を代表理事として設立され、活発に活動しております。私はejnetの事業の1つである「働きやすい病院評価」認証事業の外部評価委員の一人になっております。

毎年シンポジウムを開いておりますが、第1回は2005年5月29日に「女性医師の働く環境の現状と課題」について、大阪の北野病院で、第2回は2006年6月4日に「急増する女性医師の未来像～さらなる活躍への支援システム～」について、東京女子医科大学弥生記念講堂で行われました。第3回は2007年12月2日に「医師の理想の働き方とは・韓国と日本と比較して」と題して、虎ノ門パストラルホテルで行われました。小田泰子会長も参加され、「天は自ら助くる者を助く (God helps those who help themselves)」というメッセージを述べられました。

基調講演は、韓国延世大学解剖学教授の「Kyung Ah Park」先生が「韓国医師のワークライフバランス

とキャリア形成」について話され、その後「日韓の医師の働き方事情 (キャリア形成とワークライフバランス)」について、パネルディスカッションが行われました。司会は代表理事の瀧野先生、パネリストはPark先生、小澤邦寿先生(群馬県衛生環境研究所所長)、谷藤千暁先生(順天堂大学腎臓内科)、福島若葉先生(大阪市大公衆衛生学助教)、南 砂先生(読売新聞編集委員・医師)の5名でした。谷藤先生と福島先生は共に数人のお子様を持っておられる若い先生で、現役として谷藤先生は臨床で、福島先生は基礎医学で頑張っておられます。

私は総括を仰せつかりました。今秋から議員として参加している男女共同参画推進連携会議(えがりてネットワーク)の新規事業が「ワーク・ライフ・バランス推進の活動事業の検討と実施」であり、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する専門調査会」の報告書が配布されましたので、その一部を紹介し、更に、東京女子医科大学で昨年取り組んでいる「女性研究者支援事業」と「女性医師再

教育センター」の紹介をさせていただきました。また、小田会長も紹介されましたが、私も12月9日に行われた日本女医会主催の「医学を志す女性のためのキャリアデザインセミナー」の開催を紹介いたしました。

女性医師、女子医学生のみならず、他職種の女性や男性の参加者も比較的多かったのが印象的でした。ま

た、今回は同時通訳を日本脳神経外科同時通訳団のお二人にお願いいたしました。ejnetの副代表理事「藤巻わかえ」先生のご主人もそのお一人でした。このような通訳団があることは驚きでした。日本の学会組織中唯一のユニークな存在です。関連学会や他分野の学会の同時通訳の依頼も引き受けておられるとのこと。



## “医師会役員に女性医師を” 要望書を提出

現在、多くの医師会では役員改選の時期を迎えています。そこで一人でも多くの女性医師の役員を誕生させたいものと、日本女医会では日本医師会および都道府県医師会に、下記のような要望書を送りました。

郡、市、区などの医師会にも提出できます。ご希望の方は日本女医会事務局までご連絡下さい。

平成19年12月吉日

社団法人 日本医師会会長 唐澤祥人 先生

社団法人 日本女医会 会長 小田泰子

### 日本医師会役員に女性医師起用の要望書

日頃、日本女医会活動にご理解賜りますことを感謝申し上げます。

さて、今年度で唐澤体制第一期が終了となり、日本医師会役員改選の時期が近づきました。

ご承知のように前々期、貴会会長坪井栄孝先生は、日本医師会執行部に二人の女性医師を起用されました。日本医師会執行部への女性医師登用は私ども女性医師の積年の希望でしたので、私どもは坪井先生のご英断を非常に喜ばしく受け止め、日本における女性医師の未来に明るい展望が開かれた思いでこの動きを評価しておりました。

ところが、植松治雄先生の会長ご就任と共に、再び日本医師会役員に女性医師の登用がなくなりました。そして、平成17年、私どもは女性医師の起用を大いに期待して唐澤祥人先生の日本医師会会長のご就任を祝いましたが、残念ながらこの期待は裏切られました。

また、日本医師会役員改選の時期が参りました。今回の改選に当たり必ず女性医師を日本医師会の役員として登用して下さいますように、私ども女性医師は唐澤祥人会長のご英断を心から期待しております

昨今、医師不足を受けて日本医師会は女性医師バンクを立ち上げ女性医師の復職支援事業を始められましたが、その実績は必ずしも期待通りとは申せません。女性医師の復職は日本の医師不足、過重労働による疲弊から勤務医を解放する手段として、最良で即効性のある方策と考えますが、女性医師の反応はどちらかと申しますと冷ややかです。

その理由の一つに、日本における女性医師の評価の低さがあると考えます。大学病院における女性教授、勤務先における病院長、部長などの職に登用される女性の少なさが端的にこれを示しておりますが、この評価は女性医師のプライドを満足させるものではありません。労働力としての女性医師の存在を重視しようという背景が依然として残るならば、女性医師の就業支援事業は前途多難と申せましょう。

女性医師の就業継続あるいは復職のモチベーションを高めるためには女性医師の社会的評価を高める方策がまずなければならないと考えます。女性医師の社会的評価の象徴的なものとして日本医師会役員、都道府県医師会役員への女性医師起用があると考えます。これは女性医師に大きな勇気を与えるものとなります。しかしながら、これまでの医師会役員選出のシステムでは、女性医師が日本医師会役員となる道は閉ざされていると考えざるを得ません。

唐澤祥人会長のご英断をもちまして、「男女共同参画」の時流も踏まえ、今回の役員改選に際し日本医師会役員に女性医師起用を切にお願いし、ここに提案させていただく次第です。

# 平成の東海地震に備えよ！

中央支部 青木正美

## はじめに

この原稿を書いている2007年12月初旬現在、静岡県西部において、群発地震が起こっている。最大震度が2なので、報道は殆どされていないが、有感無感地震を合わせると、既に400回ほどの揺れを示している。地震に関心がある者にとって、この群発地震の持つ意味は大変に重い。なぜならば、この地震の震源が来たるべき「平成の東海地震」の想定震源域のまっただ中で起こっているからである。

もしもこの群発地震が「平成の東海地震」の引き金にならず、無事にこの号が出版され、拙文が皆さまの目にとまっているならば、ひとまず今回、東海地震は回避された証拠である。

ところで、近年、世界中で自然災害が増加している。日本国内においても地震を始めとして、台風や集中豪雨、土砂崩れなどが増加している。

世界中で増加している自然災害は、地球温暖化の兆候であると警鐘を鳴らす学者も多いが、残念ながら温暖化が自然災害の増加を惹起するという確固たる因果関係を証明する手だてが未だない。その理由は、同様の経験を人類はしていないからである。それゆえ温暖化の影響を、私たちは正確に判断することができず、推測する以外に術がない。

これに対し、現在日本で増加している自然災害のうち、「地震の増加」については、確固たる歴史的な事実に基づいた根拠が存在する。私たちの暮らす日本列島は、有史以来繰り返し地震に見舞われてきた歴史があるからである。

そこで本稿では、日本列島における地震の歴史を辿りながら、「地震とは何か」「地震がもたらす被害とは何か」「どんな備えをすればよいか」について、考察を試みたいと思う。

## 1 日本列島の歴史は地震の歴史である

地球の表面を覆っている十数枚のプレート（岩盤）は、絶え間なく動いているが、日本列島は4枚のプレートがひしめく場所に位置している。プレートの境界ではプレート同士が押し合う力で地震が発生する。これが「プレート境界型地震」である。このタイプの地震ではマグニチュード8を超えるような巨大地震が発生することがある。

しかしながら、押し合うプレート内部にも歪みが起こり、主に陸側のプレート内部に地震が起こる。これが「プレート内地震」である。「プレート内地震」が同じ場所で、何度も起こった痕跡のある場所を「活断層」という（図1）。

そうして、巨大な「プレート境界型地震」が起こる前の十数年間には、「プレート内地震」が多発することが歴史的体験的に知られている事実である。

例えば、1605年の「慶長の東海・東南海・南海地震」でも、1707年の「宝永の東海・東南海・南海地震」でも、1854年の「安政の東海・東南海・南海地震」でも、その前の十数年間には大きな地震の被害が起こっている。

1995年の阪神淡路大震災以後、鳥取県西部地震、新潟県中越地震、福岡県西方沖地震、石川県能登半島地震、新潟県中越沖地震と、日本列島は地震活動期に入ったと見られている。これらの地震は、陸のプレートの歪みによる「プレート内地震」であり、次に起こる「プレート境界型地震」の警戒シグナルと捉えるべきである。

## 2 地震を知る

それでは、地震とは一体、どんなものなのであるうか。地震とは「地下の岩盤が面的にズレ破壊して、

図1 地震の種類

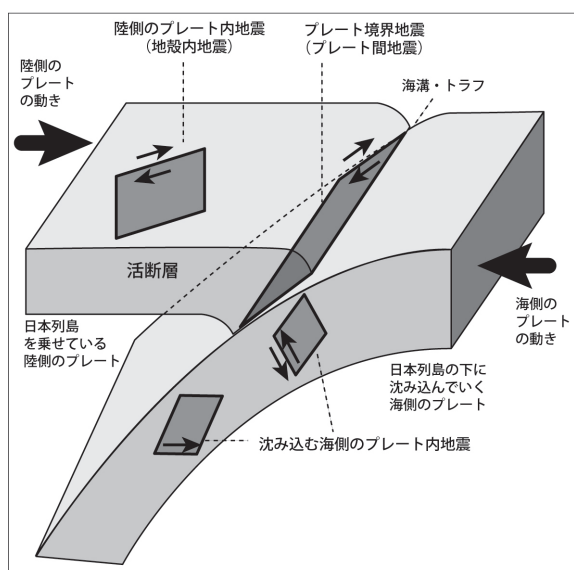


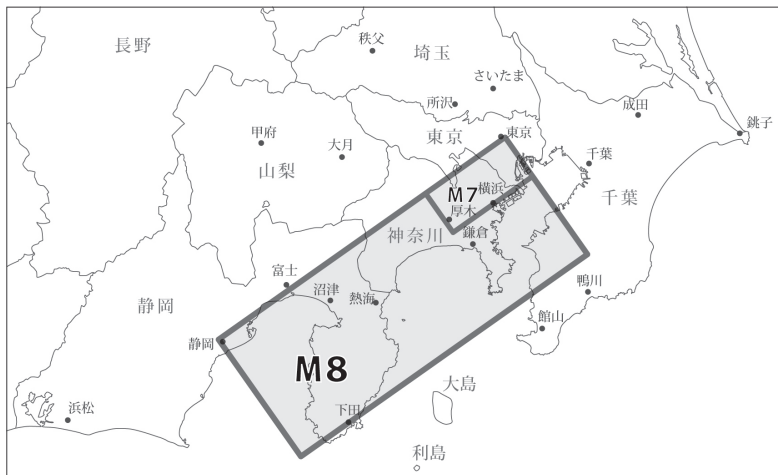
図2 マグニチュードの尺度

地震の大きさ=マグニチュード (M)

震源断層面の長さ	長さ	幅	ズレの量	破壊時間
M 6	15 km	5 km	0.5m	5 秒
M 7	30 ~ 50 km	15 ~ 20 km	2m	10 ~ 15 秒
M 8	100 ~ 150 km	50 km	5m	60 秒

(M7.8 以上を「巨大地震」という)

図3 M7とM8の地震規模の差



地震波を放出する自然現象」である。地震の大きさは震源の「震源断層面」の大きさを表している。この「震源断層面」の大きさをマグニチュード (M) で表す。

つまり、震源の地中では岩盤がズレて周囲の地面に揺れが伝わる。このズレの面積が大きければ大きいほど、地震のエネルギーが大きくなる。

ところで読者は、地震の大きさを何で判断しておられるだろうか？ 震度で判断しておられるだろうか？ 震度は実感できる単位として分かり易いが、地震に対する本当の「尺度」を持つためには、地震の大きさをマグニチュード (M) で判断することが大切である。

Mとは、「震源断層面の大きさ」が、それが「どのくらい動いたのか」ということを示す単位である (図2)。

それでは、M7とM8とは、どのくらい違うものなか、実際の地図に落として考えてみよう。

M7とは、東京から厚木までを一辺とし、厚木から鎌倉までをもう一辺とした長方形の面が、15秒かけて2メートルずれる地震のエネルギーをいう。M8とは、東京から静岡市を一辺、静岡市から下田をもう一辺とした長方形の面が60秒かけて5メートルずれる地震のエネルギーをいう (図3)。

M8が、いかに大きな規模であるのか、お分かり頂けたらだろうか？ 宝永と安政の東海地震は共に

M8.4であった。関東大震災がM7.9、阪神淡路大震災がM7.3であった。

### 3 「広域複合大震災」の認識

前述のように、私たちの住む日本列島は、太古の昔から繰り返して大きな地震に見舞われてきた歴史がある。そうして、第二次大戦後は北日本でいくつかの大きな地震があったものの、全体的には「地震静穏期」にあった。この「地震静穏期」に戦後の高度成長期が重なったことは、日本という国の戦後復興にとって、大変恵まれた偶然であったことは論を待たない。

けれども、この長い「地震静穏期」の間に、日本はいくつかの決定的な政治的ミスチークをしてしまったのである。それは、地震の歴史を忘れてしまった事

に全て起因している。

その第一は、東海・東南海・南海地震で最も被害を受ける地域に、高度な工業地帯を展開してしまったことである。太平洋ベルト地帯と呼ばれる地域は、M8.4以上のプレート境界型地震に襲われる時、約4000万人の人々が震度6強以上の揺れを受ける地域であるからだ。

第二にエネルギー政策のミスチークである。高度な工業地域を形成するに当たって、莫大な電力の供給が必要になり、2回のオイルショックを体験した日本は、エネルギー政策の軸を原子力発電という選択をしてしまった。とりわけ戦後最も愚かな政治的ミスチークは、東海地震の震源域の中心である静岡県・浜岡に原子力発電所を造ってしまったことであろう。

第三には、戦後60余年の間に、一次産業を衰退させ、郵政民営化や医療制度などの相次ぐ失政により、中山間地域に人が住むことができなくなってしまったことである。中山間地域には少子高齢化により人口が減り続け「限界集落」となり、代わって太平洋ベルト地域、特に東京・名古屋・大阪の3大首都圏に、人口の半数以上が集中するという事態が起こってしまった。

これらの明らかな失政により、来たる「平成の東海・東南海・南海地震」では、少なくとも人口の半数以上の人々が「広域複合大震災」に巻き込まれる



事になってしまったのである。M 8.4以上の地震が少なくとも3回以上連続して起こり、その後には下田～尾鷲まで巨大津波に洗われる。この時、震源の真上にある浜岡原発が稼働していれば、首都圏には偏西風に乗って12時間後に死の灰が降ることになる。

このような「広域複合大震災」に対して、私たちの社会はしっかりとした見通しや覚悟を持っているのだろうか。冒頭に触れたように、このプレート境界型地震は、実はすぐそこまでやってくるのだ。

現在、地球上で最もその発生が危惧され、それゆえ最も観測網も進んでいる地域に起こる震災である。従って、被災者となる日本人自身の関心は薄い、世界中からは非常に高い関心を集めている地震なのである。

何故なら、首都機能の消失により日本の国債は暴落して世界経済は混乱を余儀なくされ、浜岡以東の地域から太平洋上に核汚染が拡散することによって、長期間に渡って地球環境が損なわれ、また、3,000万人もの人々が一瞬にして住む場所を失って難民化することとなるからである。

#### 4 せめて浜岡原発を停止せよ

「平成の東海・東南海・南海地震」を迎えるに当たって、可及的速やかに中部電力浜岡原発を停止すべきである。代替エネルギーなど後から考えれば良い。まずは、日本に暮らす一人一人が、もっと真剣に地震の歴史を学び、真の被害について知ることが大切である。

また、医師である私たちは、より冷静に客観的事実を直視しなければならないのではないだろうか。

人類の有史以来、最悪な原発災害であるチェルノブイリの被害を下敷きにすると、浜岡よりも東側の首都圏のほぼ全域（静岡県東部・神奈川県・東京都・埼玉県南部・千葉県西南部）では、人類が住むことが不可能になる。この地域には現在3,000万人の人々が暮らしている。

日本は有史以来、何も資源を持たない国でありながら、人々の叡智に因って今では世界第二のGDPを生む国になった。しかし、私たちの叡智がどんなに優れていようとも、「平成の東海・東南海・南海地震」を止めることは決して出来ないことである。けれども、浜岡原発を停止させる事はできるのではないだろうか。もう、見て見ぬふりや無関心が許される時期ではない。

「効能・効果」「用法・用量」「禁忌を含む使用上の注意」等、詳細については製品添付文書をご参照下さい。

**BANYU**  
A subsidiary of Merck & Co., Inc.  
Whitehouse Station, N.J., U.S.A.

製造販売元【資料請求先】  
**万有製薬株式会社**  
〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア  
ホームページ <http://www.banyu.co.jp/>

**新発売**  
持続性ARB/利尿薬合剤 薬価基準収載  
TM

**プレミネント錠**  
〈ロサルタンカリウム/ヒドロクロロチアジド錠〉

指定医薬品・処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること  
TM Trademark of Merck & Co., Inc., Whitehouse Station, N.J., U.S.A. 2006年11月作成 | 11-1102R-06-J-A150-J

■支 部 だ よ り■

京都支部の  
つどい

京都支部 石川知子



装いも新たに、京・東山七条にはじめての春をむかえるホテルハイアットリージェンシー京都で、3月4日に京都支部の会を行ないました。正面を国立博物館、西隣を三十三間堂に囲まれ、晴天の中、小田会長、石原元副会長、鹿田副会長をお迎えして、23名の参加ではじめました。小田先生より「中央での取り組みについて」、石原先生・鹿田先生より「21世紀の子供のための小児救急医療の整備と提言について」、仁科副支部長より「京都での小児救急のアンケート調査について」詳しく報告していただきました。

講演会では千葉勉・京大消化器内科教授より「感染症の違った見方—消化器疾患を例に—」と題して、実地診療に役立つ講演がありました。そのあと、ホテルロビーのシンボルとなる樹木の前で記念撮影。さらに部屋を変わって、懇親会になりました。評判の石釜のオープンで焼き上げたナポリタンスタイルのピッツ

ア。今はやりの料理の一皿、一皿が創り出す、至福の時を楽しみました。また、ウエスタン音楽が趣味の知人による、北は東京より大阪、神戸、京都から、この日のために集まった5名のバンドで、テネシーワルツなどのオールデイズの音楽に耳を傾けました。私も「思い出のグリーングラス」の懐かしい歌声にいつの間にか立川米軍病院オフィサーズクラブを思い出してしまっていました。暖かい声で歌うそれぞれの曲が、すっかり参加者の心をゆさぶったようで、この音楽を聞けただけでもこの会に参加した価値があったとの声まであり、とっても嬉しく思いました。リーダーにお尋ねしたところ、歌手の諸口あきらとプロ活動をしているとの事がわかり、なるほどと納得しました。

会の終わりには、1等はシーズンならではのホテルスペシャルクッキー、2等はスパ使用商品で、今カリフォルニアで大人気の京コスメ「ちどりや」のオイル、3等は京ちりめんの手鏡、参加者全員には京うすやき野菜煎餅をお土産に、来春の再会を願って、終わりました。

顔見世の 京に入り日の あかあかと

万太郎

過活動膀胱治療剤

指定医薬品、処方せん医薬品<sup>(注)</sup>

ステープラ<sup>®</sup>錠 0.1mg

イミダフェナシン錠

STAYBLA<sup>®</sup>

(注) 注意-医師等の処方せんにより使用すること。

薬価基準収載

新発売



●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、詳細は製品添付文書をご参照ください。

資料請求先



小野薬品工業株式会社

〒541-8564 大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号

070701

おひとりさま  
の老後



書評 『おひとりさまの老後』

東京大学大学院教授 上野千鶴子著  
法研 1400円

長生きすればするほど、みんな最後はひとりになる。結婚したひとも、しなかったひとも、最後にはひとりになる。女のひとは、そう覚悟しておいたほうがいい。という言葉で始まる「おひとりさまの老後」は、社会学者である上野氏の歯切れの良い語り口で話される老後の生き方の指南書である。

専門は女性学、ジェンダー研究。この分野のパイオニアと云われる上野氏は、近年高齢者の介護問題にも関わり、その中で一人暮らしの女性たちへのエールが生まれた。著者によると、ひとりの老後も備えあれば憂いなし、その為にはスキルとインフラが必要と。いかに暮らすかについてのソフトとハードだ。特にそのソフト面を重要視して本書は書かれている。

主な内容は、

第1章「ようこそ、シングルライフへ」、第2章「どこでどう暮らすか」、第3章「だれとどうつきあうか」、第4章「おカネはどうするか」、第5章「どんな介護を受けるか」、第6章「どんなふうに〈終わる〉か」

サブタイトルを読むだけでも愉快になる。

「友達にはメンテナンスがいる。」「職場に友人はいなくてけっこう。」「ハイテクが支えるコミュニケーション。」「ベッドメイトよりテーブルメイト。」「メシがうまくなる相手と少人数で。」「女同士の食卓に男は呼ばない。」「弱音を吐ける女、吐けない男。」「介護される側にもノウハウがいる。」「介護を受ける作法と技法。」「男というビョーキは死ぬまでなおらない。」等々。

おひとりさまの死に方5カ条には、「死んだら時間をおかずに発見されるように、密でマメなコンタクトをとる人間関係をつくっておくこと。」がまず書かれている。なるほどと思う。その他すべて残されたひとが困らないようにとの配慮に満ちている。「葬儀の費用は謝礼とともに用意しておくこと、ひとが動く費用はタダとは考えないこと。」「遺したら残された人が困るような物は早めに処分しておくこと。」当たり前の事だがこれがなかなか難しい。最後に、「なに、男はどうすればいいですか、ですって?せいぜい女に愛されるよう、かわいげのある男になることね。」

一度話を聞いてみたい。

副会長 角田由美子

**Pariet®**

指定医薬品・処方せん医薬品\*  
プロトンポンプ阻害剤

【薬価基準収載】



**パリエット®** 錠10mg  
錠20mg

〈ラベプラゾールナトリウム製剤〉

\*注意-医師等の処方せんにより使用すること

●効能・効果、用法・用量及び禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元

**エーザイ株式会社**  
〒112-8088 東京都文京区小石川4-6-10  
<http://www.eisai.co.jp>

商品情報お問い合わせ先: エーザイ株式会社 お客様ホットライン室  
☎0120-419-497 9~18時(土、日、祝日 9~17時)

PT0702-13 2007年2月作成



**遺伝子組換えヒトエリスロポエチン製剤** 薬価基準収載

生物由来製品、劇薬、指定医薬品  
処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること

<b>エポジン®</b>	<b>注</b>	シリンジ	750	6000
		アンプル	1500	9000
			3000	12000

**EPOGIN®** エポエチン ベータ (遺伝子組換え) 製剤

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、製品添付文書をご参照下さい。  
<http://www.chugai-pharm.co.jp>



**中外製薬**

〔資料請求先〕  
〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

ロシュ グループ

## (((理事会議事録)))

**日時**：平成19年9月8日(土)

午後3時00分

**場所**：(社)日本女医会会議室

**出席者**：小田、鹿田、角田、山崎(ト)、荒木、内潟、大坪、古賀、澁谷、高原、塚田、対馬、西嶋、藤川、森川、村田、山崎(康)、山本(繡)、山本(詩)、吉馴、松井  
(以上21名)

**欠席者**：大塚、坂本、田中、津田、濱田、中井  
(以上6名)

庶務報告/会計報告/各部報告

### 議題

- 2008年定時総会について
- お茶の水女子大、アンケート協力依頼について
- 女性医師支援委員会より
  - シンポジウム開催について
  - エッセイ 北から南まで
- 福祉医療機構助成金申請について
- その他
  - 軽井沢セミナーについて
  - 後援依頼
  - JMSからの原稿依頼
  - 市民公開講座申請について

7月理事会の議事録を承認

### 会長挨拶

- ガーナで開催された「第27回国際女医会議」参加の報告
- 女性医師支援委員会の活動、他団体とのコラボレーションの難しさを知った。
- 独立行政法人福祉医療機構・助成金申請へ皆様のアイデアを期待。
- 今期役員任期も残り少なくなってきた。各地から多くの方に立候補して頂きたい。
- 来年の総会までに吉岡弥生賞基金の財源がマイナスにならない方法を見つけ出したい。

### 報告事項

- 庶務報告 古賀理事  
・6月会計報告(高原理事) 承認
- 各部報告 なし
- 委員会報告

- 子育て委員会(鹿田副会長)  
9月29日佐賀で、11月中には岩手で講演会を開催。  
配布した「救急病院、救急隊の方」へのアンケート協力を要請。  
小冊子「どうしよう…小児救急」増刷するので販売協力も要請
- 長寿社会福祉委員会(吉馴理事)  
9月30日大阪府医師協同組合で開催する「たんの吸引を安全に行うための講習会第6回」の進捗状況の説明。
- 日本医師会男女共同参画委員会報告(大坪理事)  
7月28日、横浜で開催された「第3回男女共同参画フォーラム」の報告
- その他 なし

### 協議事項

- 2008年定時総会について 澁谷理事  
京王プラザホテルからの見積書(資料1)に基づき総会費用について説明。昼食として参加者に「幕の内弁当」を出すことに決定。
- お茶の水女子大、アンケート協力依頼について 荒木理事  
2度面談しアンケート作成の協力をしたが、突然中止の連絡を受けた。指導の先生に会い、女医会の見解を伝えることで了承。
- 女性医師支援委員会より 荒木理事  
・女性と仕事の未来館共催イベント「医学を志す女性のためのキャリアデザインセミナー」開催(資料2)に基づいて、内容、予算、講師の人選、謝礼金等について検討する。  
午前中は「キャリアデザイン構築」の内容でプロに依頼。午後は小児科、産婦人等の医師によるセミナーとし、講師料一人3万円とした企画書を未来館へ提出する。  
・エッセイ 北から南から  
ホームページに「北から南から」の表題で役員が交代で約千字のエッセイを載せることに決定。第一回は9月末までに小田会長と山崎トヨ副会長が担当。書いた人が次に書く人を指名。
- 福祉医療機構助成金申請について(資料3 大坪理事、対馬理事)  
大坪理事より申請書(案)「在宅高齢者の栄養管理(嚥下障害者、胃瘻造設者の介護)」、対馬理事より申請書(案)「十

代の性の健康」支援ネットワーク作り事業」の説明があり、申請することを承認。

### 5. その他

- 軽井沢セミナーについて(資料4 鹿田副会長)  
旧役員を含め会員の有志に日本女医会の厳しい財政状況も含めた今後について助言を頂くための会開催を承認。  
現役員の多数の出席を要請。
- 後援依頼(資料5)  
東京女子医大女子医学研究者支援室から「第2回女性医師支援交流会」へ、性と健康を考える女性専門家の会から「シンポジウム」へ名義のみの後援依頼、承認。
- JMSからの原稿依頼  
小田会長が日本女医会の紹介文を執筆する。
- 市民公開講座申請について  
岩手支部より10月20日開催の市民公開講座「女性医師による女性医療」への助成申請があり、日本女医会共催で10万円の助成を決定。
- 忘年会、新年会について  
12月理事会後の忘年会又は1月理事会後の新年会か、次回理事会までに決定
- 荒木理事より、女性と仕事の未来館「健康促進事業実施にかかわる広報依頼」の説明
- 藤川理事より  
女子医学生にPRするために「日本女医会紹介のパネル」制作の提案があった。  
来年の学園祭までに完成するよう前向きに検討する。入会案内も新しくする。  
森川理事より各自が5人ずつ新入会者を紹介すると言う意見も出された。
- 角田副会長より、役員それぞれ個人が利殖して、その利益を吉岡弥生賞基金に寄付してはどうかと提案された。
- 内潟理事よりガーナ開催の国際女医会議の報告とスライドの映写があった。  
次回国際女医会議(2010年)はドイツで開催。国際女医会議西太平洋地域会議は2008年メルボルンで、2011年は日本での開催となっている。  
橋本前会長から「国連NGO国内婦人委員会」への協力要請があったとの報告。
- 対馬理事より女性医師専門人材会社

「女性医局」の紹介

以上

**日時:**平成19年10月20日(土)  
午後3時00分

**場所:**(社)日本女医会会議室

**出席者:**小田、鹿田、角田、山崎(ト)、荒木、内潟、大塚、大坪、澁谷、田中、塚田、西嶋、濱田、藤川、森川、山崎(康)、吉駒、中井、松井 (以上19名)

**欠席者:**古賀、坂本、高原、対馬、津田、村田、山本(續)、山本(蒔) (以上8名)

庶務報告/会計報告/各部報告

**審議事項**

1. 第53回定時総会の件
2. ブロック別懇談会の件
3. 国連NGO国内婦人委員会からの依頼
4. その他

9月理事会の議事録を承認

**会長挨拶**

1. 女性医師と医師全体の働き方が見直されてきている。女性医師支援も待つのではなく自分自身から声をあげていくべきで、できることから真剣にとり組んでいかなければならない。
2. 日医ニュース10月5日号の井伊雅子一橋大教授の記事、10月20日号の「勤務医のページ」を是非読んでいただきたい。
3. 日本物理学会キャリア支援センター長・坂東昌子氏、朝日新聞論説委員・田辺氏等の記事も自身で声をあげるべきという内容である。
4. 日本女医会としてはまず実績を挙げることが大切である。子育て委員会は佐賀で、長寿社会福祉委員会は大阪と寒河江で開かれた。また、女性医師支援委員会によるセミナーも女性と仕事の未来館で開催される。
5. 各賞の推薦、役員立候補、総会の準備等もそろそろ始めなければならない。
6. 富山支部訪問の報告。11月に香川県女医会会長と面談の予定。

**報告事項**

1. 庶務報告 澁谷理事  
・9月19日、国連NGO国内婦人委員会主催「第62回国連総会政府代表代理黒崎伸子氏歓送会」出席の報告(松井監事)  
・10月13日、国連NGO国内婦人委員会・創立50周年記念シンポジウムに出席の報告(荒木理事)  
・10月15日、広報部会を開催。会誌192号は10月25日に発送の予定  
・10月16日、スウェーデン大使館主催「日本・スウェーデン男女共同参画ジョイントシンポジウム記念レセプション」に出席(松井監事)
2. 9月会計報告(森川理事) 承認
3. 各部報告  
・広報部  
ホームページに新しく「北から南から」の掲載が始まった。次の担当は松井監事と澁谷理事。
4. 委員会報告  
・子育て委員会(鹿田副会長)  
救急病院と消防署に配布したアンケートは皆様の協力により多数回収している。  
9月29日、佐賀市にて開催された講演会に出席の報告(山崎副会長)  
増刷した小冊子「どうしよう…小児救急」の販売協力を要請。  
・長寿社会福祉委員会  
9月30日、大阪市で開催された「たんの吸引を安全に行うための講習会・第6回」の報告(吉駒理事)  
10月14日、寒河江市で開催された「たんの吸引を安全に行うための講習会・第7回」の報告(角田副会長)  
11月25日に宇都宮市、1月20日に盛岡市、2月19日に八千代市で開催(大坪理事)  
・女性医師支援委員会(荒木理事)  
12月9日、女性と仕事の未来館で開催する「医学を志す女性のためのキャリアデザインセミナー」について進捗状況についての説明
5. その他 なし

**協議事項**

1. 第53回定時総会について  
懇親会来賓として日本医師会長、東京都医師会長に出席を願う。シンプルにす

るため、懇親会でのアトラクションは行わないことに決定。会食メニューは庶務に一任。

2. ブロック別懇談会の件  
小田会長から富山支部長との面談の報告。富山での開催は不可能。

活動をしていない支部と支部長としてのあり方について話し合った。支部活性化のため如何にすべきか、本部として何ができるか、今後も検討する。

3. 国連NGO国内婦人委員会からの依頼

中東女性交流事業を一年前倒して来年度に日本女医会が担当してほしいとの依頼があった。日本女医会にとってメリット・デメリット、目的を明確にして、条件をつけて引き受けるとの意見が多く、決定する。渉外部とNCが担当する。

4. その他  
・次々期総会について(西嶋理事)  
2009年度の総会を大阪支部連合会で引き受けるとの報告。  
・「本の紹介」、ホームページ掲載について(小田会長)

特定の本の紹介は偏る可能性があるのでホームページには載せず、日本女医会誌の「書評」を利用する。

・12月9日開催の「セミナー」について  
学術部の予算で行う。当初の予算より安くできる見込み。昼食希望の有無、保育希望の有無等を記入したチラシを作成し、ホームページに載せる。広報に努める。

・11月10日開催される東京都支部連合会総会に多数の出席を要請

・11月10日の軽井沢セミナーは現在のところ23名の出席

以上

**日時:**平成19年11月17日(土)  
午後3時00分

**場所:**(社)日本女医会会議室

**出席者:**小田、鹿田、角田、山崎(ト)、荒木、内潟、大塚、大坪、古賀、坂本、澁谷、塚田、対馬、津田、濱田、森川、村田、山崎(康)、山本(續)、山本(蒔)、中井、松井 (以上22名)

**欠席者:**高原、田中、西嶋、藤川、吉駒 (以上5名)

## 庶務報告／会計報告／各部報告

## 審議事項

1. ホームページについて
2. アラブ女性交流事業について
3. 女性医師支援委員会から  
・12月9日のシンポジウムについて
4. その他  
・総会時の出店について  
・日本女医会の活動について  
・吉岡弥生賞規定について  
・国立女性教育会館の存続について  
・子育て委員会より  
・職員賞与について

10月理事会の議事録を承認

## 会長挨拶

1. 11月14日、元会長山崎倫子先生の武蔵野北町高齢者センター開設20周年祝賀会に出席の報告
2. 11月10日、高松市で香川県女医会会長橋本先生と面談する
3. 12月9日開催の「キャリアデザインセミナー」を他方面に広報をしてほしい。
4. たんの吸引、小児救急の事業は順調に進行している。まだ実行していない今年度事業計画があったら、今からでも進めてほしい。
5. 男性の意識を高めなければ女性が尊厳を持って働ける社会の実現は不可能である。
6. 日本の医療の質、コスト、アクセスの三つを同時に満たすことは不可能と言われているが、この問題を真剣に考えなくてはならない。

## 報告事項

1. 庶務報告(大塚理事)  
・10月21日、「栃木支部総会」出席の報告(小田会長)  
・11月10日、東京都支部連合会総会に出席の報告(角田副会長)  
・11月10日、香川県女医会橋本会長、大内副会長と面談の報告。(古賀理事)  
・11月10日～11日、「軽井沢セミナー」の報告(鹿田副会長)  
・11月14日、「内閣府男女共同参画推進連携会議」に出席の報告(松井監事)
2. 10月会計報告(濱田理事) 承認

広報部の会計支出は会誌制作・発送費と会議費に分割した方がいいのではとの意見が出されて会計部で検討することになった。

3. 各部報告  
＜事業報告＞アンケート調査結果について資料に基づき説明があった。  
「評議員」と「支部長」の違いは何か、また「理事」は支部の代表としているのか、県女医会との関係等、難しい問題が山積しているので、審議事項として改めて検討(坂本理事)  
＜渉外報告＞ユニセフ会議は出席不可能(山本(蒔)理事)  
＜学術報告＞地方開催の講演会を検討中(山本(續)理事)  
＜広報報告＞会誌192号発送、193号の原稿を募集中(大坪理事)

## 4. 委員会報告

- ・子育て委員会(鹿田副会長)  
埼玉県庁からの依頼で石原委員長が講演会を行っている。  
増刷した小冊子「どうしよう…小児救急」の販売協力を要請。  
・長寿社会福祉委員会(松井監事)  
11月25日に宇都宮市、1月20日に盛岡市、2月16日に八千代市で開催する「たんの吸引」講習会に協力の要請があった。  
講師依頼があれば協力することとする。

## 審議事項

1. ホームページについて(角田副会長)  
責任者を広報部の中から決める。他団体から掲載依頼のあった場合、また日本女医会誌のどの部分を掲載するか、広報部で原案を作り次回理事会で再検討する。
2. アラブ女性交流事業について(角田副会長)  
現時点では動きはないが、日本女医会のできる範囲で行うことを確認する。
3. 女性医師支援委員会から  
改めて7月理事会で決定の女性医師支援委員会・委員長として荒木理事が紹介された。  
・12月9日のシンポジウムについて  
案内を全会員、全大学医学部、関東周辺研修医病院、高等学校(36校)等

に送付済み。集客が思わしくないので役員の協力を要請。支出は約66万円の見込み。

## 4. その他

- ・総会時の出店について(小田会長)  
出店後の個人的な訪問販売に苦情も聞かれ、今後どのようにするかを整理する。
- ・日本女医会の活動について(荒木理事)  
今後の日本女医会活動について活発な意見が交換された。  
何をどこまでやるか、日本女医会だけで何かを行い成果を出すことは難しくなっている。今後支部を含めた他団体と協力するか、全国展開するかなど方向性を持って検討しなければならない。国からの補助をもらうことにより、各分野の女性の総研の立場として、日本医師会と同等となることを目指したい。等々。  
女性医師支援委員会で話し合った上、理事会で再討議する。
- ・吉岡弥生賞規定について(鹿田副会長)  
必ず役員の推薦が必要とされているので、推薦者を「役員又は支部長」に訂正することに決定。荻野吟子賞も同様にする。来年の総会に審議事項として提出する。選考書類は選考委員が開封、不備が無いかを確認する。  
静岡支部長からの推薦は役員の一名が推薦者となることを承認する。
- ・国立女性教育会館の存続について(小田会長)  
国連NGO国内婦人委員会より依頼のあった「青少年関連施設法人との統合に反対」の署名活動を承認。
- ・外部団体との交流について(小田会長)  
渉外部理事が出席不可能の時、中井監事に会議出席を依頼することを承認
- ・子育て委員会より(鹿田副会長)  
聖教新聞よりシリーズで「小児救急」の記事を掲載してほしい旨依頼があった。宗教色のあるものはお断りすることに決定。
- ・職員賞与について  
2.6ヶ月分とする。

以上

# 告示

日本女医会定款第二十四条に基づき、平成20年5月18日(日)、京王プラザホテルにおいて、平成二十年度定時総会を開催いたします。同時に第十五条の規定により、現役員任期満了に伴う役員選挙を行います。

なお、立候補の届出は、定款施行規則第十七条により、平成20年3月19日(水)、本部に必着を厳守願います。

選挙に関する定款及び定款施行規則の抜粋

定款第十四条 理事二十一名以上二十五名以内(内会長一名、副会長三名) 監事二名

定款施行規則第七条 選挙人は、選挙の九十日前までの正会員とする。被選挙人は、入会后三年経た正会員とし、会費完納者とする。

定款施行規則第十七条 立候補者は、選挙の告示のあった日から選挙の日の六十日前までに立候補届を文書で理事会に届出なければならぬ。

届出書類(一)立候補届

(二)規定の履歴書

立候補届に関する書類(一)、(二)は本部にあります。

お申し込み次第お送り致します。立候補は自薦のみです。

## 社団法人日本女医会 第53回 定時総会のお知らせ

新しい年を迎え、諸先生にはご清祥にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

第53回日本女医会定時総会は、東京において下記の予定で開催致します。今回は多くの方に参加していただきたく、評議員会と懇親会を土曜日に開催し、日曜日の午後から総会・選挙・講演会を行い、終了を5時半に計画しました。

また、今年日本女医会の役員改選の年でございますので、皆様お誘い合わせの上、是非ご出席を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年5月17日(土)～18日(日)

場所：京王プラザホテル 〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1 (電話03-3344-0111)

5月17日(土)		5月18日(日)	
評議員会	17:00～19:00	総会・選挙(軽食つき)	11:00～13:30
懇親会	19:00～21:00	講演会	14:00～15:30

※時間と内容は多少変更する場合がございます。詳細は次号にてお知らせ致します。

### ◆評議員会及び予備評議員の改選

定款施行細則第24条により各支部において、評議員1名、予備評議員1名(再選可)を選出され、平成20年3月末までに本部にお届け下さい。

なお、新評議員及び新予備評議員の任期は平成20年4月1日より平成22年3月31日までとなります。

## 会員動静 (2007年12月16日現在)

新入会	守内 順子(昭46年卒)	北海 道	山田 不二子(昭61年卒)	神奈川 川
	岩崎 恵美子(昭43年卒)	宮城 城	宮上 孝子(平8年卒)	富山 山
入会	菊地 宏子(昭45年卒)	宮城 城	宮田 真喜子(昭50年卒)	大阪 第3
	福與 なおみ(平9年卒)	宮城 城	長野 禮子(昭25年卒)	大阪 第8
	菊池 信子(昭45年卒)	栃木 木	村上 美佐子(平18年卒)	大阪 第9
	永谷 久美(昭59年卒)	栃木 木	千々 松郁枝(平14年卒)	広島 島
	西川 愛子(平18年卒)	新潟 新		
	中山 佳優(平18年卒)	文京 京	退会 故 町田 俊子(昭29年卒)	千葉 葉
	小島 原典子(昭63年卒)	東女医学 内	安原 睦子(昭14年卒)	山 岡

### 編集後記

2008年を迎え、地球環境と、運命共同体であるわれわれ人類の、平和と安寧を願ってやみませんが、年始から、燃料費の高騰、救急医療の崩壊とたらいまわし、家族殺し、子どもの遺棄や虐待と、不安や心配を通りこして心や感性が凍ってしまうようなニュースが次々と流れてきます。このような激動の日本や世界にあっても、私たち日本女医会の活動は、たんの吸引、小児救急、若い女性医師の支援、十代の健康支援等々、常に暖かく善意に満ちたものです。良質な医療やヘルスケアが、社会的弱者といわれる子どもや女性、お年寄りにもあまねく届くようにとの願いがこめられているからです。今年も自信をもって、活動してまいります。

女医会ホームページも、今までの会員連絡用を改め、一般のかたにも広く当会の活動をしていただくよう、リニューアル計画をすすめております。どうぞ忌憚のないご意見をお寄せください。また、若い先生方の女医会活動への参加もお待ちしております。今年もどうぞよろしく願いいたします。(対馬ルリ子)

## 日本女医会誌

復刊第193号 2008年1月25日発行  
編集人 大坪公子  
発行人 小田泰子  
制作 あづま堂印刷製

発行所 社団法人 日本女医会  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル  
TEL 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769

http://www.jmwa.or.jp  
e-mail: office@jmwa.or.jp